

# 感染症情報

## 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会 感染症解析評価部会]

(平成15年7月解析分)

## 1 疾患別定点情報

定点把握(週報)4類感染症

平成15年6月分(6月2日～6月29日:4週間分)

疾患No.	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No.	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	1	0.00	0.01		12	麻疹	5	0.02	0.20	
2	咽頭結膜熱	105	0.35	0.23	↗	13	流行性耳下腺炎	202	0.67	1.22	↘
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	402	1.34	0.99	⇒	14	急性出血性結膜炎	3	0.04	0.05	
4	感染性胃腸炎	1,113	3.71	3.26	↓	15	流行性角結膜炎	111	1.32	1.33	↘
5	水痘	662	2.21	1.54	↘	16	急性脳炎	2	0.03	-	
6	手足口病	2,947	9.82	1.40	↑	17	細菌性髄膜炎	3	0.04	0.01	
7	伝染性紅斑	116	0.39	0.33	⇒	18	無菌性髄膜炎	28	0.33	0.86	↑
8	突発性発疹	312	1.04	0.88	↗	19	マイコプラズマ肺炎	9	0.11	-	
9	百日咳	5	0.02	0.03		20	クラミジア肺炎	0	-	-	
10	風疹	2	0.01	0.05		21	成人麻疹	0	-	-	
11	ヘルパンギーナ	344	1.15	2.39	↑	※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↗	⇒
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

## ※定点について

定点情報は、定点把握対象の四類感染症(週報対象21疾患、月報対象7疾患)について、県内187の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾患No.	1	1~13	14,15	22~25	16~21,26~28	
定点数	44	75	20	27	21	187

この情報は、「<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html>」のホームページに掲載しています。

全国情報については、「<http://idsc.nih.go.jp>」に掲載されています。

インフルエンザホームページについては「<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp>」に掲載されています。

## 定点把握(月報)4類感染症

平成15年6月分(6月1日~6月30日)

疾患No.	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No.	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	48	1.78	2.33	↘	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	126	6.00	-	↗
23	性器ヘルペスウイルス感染症	22	0.81	0.79	↗	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	44	2.10	-	↘
24	尖圭コンジローム	18	0.67	0.40	↗	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.10	-	
25	淋菌感染症	28	1.04	0.95	↔	※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

- 手足口病 急増(5月498件⇒6月2,947件)
- ヘルパンギーナ 急増(5月68件⇒6月344件)
- 無菌性髄膜炎 急増(5月3件⇒6月28件)

## 2 一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

- 一類・二類感染症 発生なし
- 三類感染症 1件発生(腸管出血性大腸菌感染症(福山市1件(O26)))
- 全数把握四類感染症 3件発生(後天性免疫不全症候群1件、急性ウイルス性肝炎1件(B型)、ツツガムシ病1件)

## 3 一般情報

## ○ 手足口病

手足口病が県内で増加しています。広島地域保健所管内と広島市内で第20週(5月12日~18日)頃から増加傾向が顕著になり、第24週(6月9日~15日)頃から急激な増加傾向を示しています。6月月間発生数も2,947件と定点当たり9.82件で過去5年間平均(1.40件)と比較しても発生率は高い数値を示しています。

全国的には、第19週(5月5日~11日)頃から、緩やかな増加に転じていますが、本県のように爆発的な増加傾向にはなっていません。近隣県においては、島根県・福岡県が増加傾向にありますが、山口県・岡山県・鳥取県においては、全国的な増加傾向と同様です。

本県では、第24週(6月9日~15日)頃から、急激な増加を示しており、咽頭ぬぐい液2検体からエンテロウイルス71型が検出されています。

広島県感染症発生動向月報の5月号に一般情報で情報提供を行いました。今月再度情報提供を行います。

この病気の原因は、エンテロウイルスである、コクサッキーA16型、A10型、エンテロウイルス71型の感染により発症し、口腔粘膜及び四肢末端に現れる水疱発疹が特徴で、手足全体、肘や膝あるいは臀部周辺部に見られることもあります。軽度の発熱がある場合もあります。潜伏期間はおよそ3~5日で、感染経路は飛沫感染、糞口感染、水疱内容から直接感染し、数日間で自然治癒しますが、ときに無菌性髄膜炎や脳炎を併発し重症化することがありますので注意が必要です。

類症鑑別診断としては、口腔内の発疹からヘルパンギーナ、ヘルペスウイルスによるアフタ性口内炎があります。また、手足の発疹から水痘の初期疹、ストロフルス等があります。

## ○ 無菌性髄膜炎

県内における無菌性髄膜炎が、全国と比較しても高く増加傾向にあります。(5月3件→6月28件)無菌性髄膜炎は、多種多様の病原体が関与しており、その中でも約85%がエンテロウイルスが関与しているといわれています。感染経路は、糞口感染ですが飛沫感染の場合もあります。症状は、頭痛・発熱・悪心で腹痛・下痢を伴うこともあります。潜伏期間は、エンテロウイルスの場合では、4~6日です。予後については、病原体にもよりますが、エンテロウイルスの場合は良好ですが、生後数ヶ月の乳児の場合は注意が必要です。

なお、県内において、無菌性髄膜炎の検体からはエンテロウイルスは確認されていません。

## ○ ヘルパンギーナ

6月に入り、本病気が増加傾向にあり、発生件数は、月間344件と少ないものの急増しています。定点当たり、1.15件で過去5年間平均の2.39件には及びませんが、今後、増加する兆候にあります。

症状は、38℃~40℃の発熱、咽頭痛、頭痛、筋肉痛、まれに流延や発疹を認めることもあります。病原体は、コクサッキーウイルスA群が多く、まれにコクサッキーウイルスB群でも発症します。潜伏期間は、約2~4日で飛沫感染が主な原因ですが、ウイルスは腸管で増殖するため、便を介して間接的に経口感染する場合があります。1歳~4歳が、好発年齢で、まれに髄膜炎を併発することがあります。

**重症急性呼吸器症候群(SARS)に関して、WHOは、平成15年7月5日、全ての「伝播確認地域」の指定を解除しました。また、渡航制限に関する勧告も出していませんが、渡航される方は、SARSの症状(急な発熱・咳などの呼吸器症状)は十分知っておいてください。**